

4 第4学年の取組

(1) 実践内容 一ふるさと甚目寺「環境にやさしい町づくり～われら環境調査隊～」

① はじめに

4年生は、社会科でゴミや水など、環境に関連する学習をする。その学習をきっかけに、ゴミ・水・省エネというテーマを軸にして、地域の環境について目を向けさせた。そして自分たちにできることは何かを考えさせ、実践に取り組んだ。

② 「環境にやさしい町づくり～われら環境調査隊～」にかかわる学習

ア 社会科でのゴミや水の学習

社会科のゴミの学習が環境学習の入り口となった。教科書や、家庭のゴミ排出調べなどの学習を行った。さらに、児童がもっと詳しく知りたいと考えていたため、出前授業である市生活環境課の方に来ていただき、あま市のゴミの状況や、家庭で取り組んでもらいたいことなどを話していただいた。分別の大切さや、資源にできるゴミは資源にするなど、たくさんのお話を児童は学んだ。そして、学んだことを実際にやってみたり、家で家族に伝えたりするなど、環境問題について知り、実践していこうとする気持ちを少しずつもつことができた。また、その道の専門の方に話を聞くと、詳しく学ぶことができるという体験をすることができた。

五条川工場の見学では、ゴミを焼却処分するだけでなく、焼却の過程で発生した灰をさらに熔融して、再利用していることを知った。そして、焼却の過程で出る熱で水を温めて発電し工場内の電力をまかなっていることや、工場内で使用した水を何度も再利用することを学んだ。また、ゴミの分別がしっかりされていないと、機械の故障につながることや、環境に配慮する取組が、身近な工場でも行われていることを知り、環境問題について考えるきっかけとなった。

見学の帰り道には、落ちていたゴミを拾ったり、用水路のゴミをとっても気にしたりする児童が多くなった。自分たちの身近な問題として、ゴミ問題をとらえる様子が見られた。

また、水道の学習では、水がどのようにして届くのか、水の大切さ、節水の大切さなどについて学んだ。これらの学習の中で、ゴミ・リサイクル、水、省エネといった環境問題の視点が明らかになった。

イ 国語科と関連した学習

「よりよい話し合いをしよう」の単元を通して、考えの共通点や相違点を考えながら話すことや、話し合いの方法について学んだ。また、中日新聞販売店の協力のもと、「新聞を作ろう」の単元を学習し、新聞の特徴を学び、知らせたいことを効果的に伝える方法についても学んだ。

ウ 総合的な学習の時間

社会科の学習を通して、児童が興味をもった内容をもとにして、下記のような環境に関する学習や出前講座を行った。これらの活動から、環境と自分、環境の身の回りの生活が大きくかかわっていることに気付くことができ、環境に関する関心を高め、さらに調べてみようという気持ちを高めることができた。

(7) 「川をよごしたのは誰だ」

川を汚す過程を擬似的に体験し、誰が川を汚しているのか、そのためにわたしたちにできることは何であるのかを考えた。

(4) 「環境にやさしいお買い物」(ユニーホールディングス)

環境に配慮した商品や、リサイクルによって生まれ変わった容器があることや、リサイクルマークについて学んだ。また、鉛筆を作るときに出る木のくずを用いた粘土で鉛筆を



【あま市環境課のゴミ学習】



【五条川工場で質問】



【よりよい新聞の表し方を学ぶ】

作り、リサイクルの大切さを感じることができた。

(ウ) 「エコクッキング」(東邦ガス)

粉ふきいも作りを通して、材料の切り方、使う鍋の大きさ、水加減、火加減によって、使うガスの量に違いがあることを知り、調理方法を工夫することで、ガスの使用を減らし、家庭でも身近に地球温暖化防止に貢献できることを学んだ。

(エ) 「水に住む小さな生き物」(日本技術士会)

水中にいる微生物の観察を通して、生き物が住みやすい水環境には微生物の力が必要であることを知る事ができた。

エ 夏休みの取材・見学活動など

6月から7月の出前講座を通して、さらに詳しく知りたい内容について夏休みに取材・見学活動を行った。下記のコースの中から児童が選択をして、学習に参加をした。

(ア) ごみステーション見学、ごみ回収業者の方への取材

パッカー車の見学や、ごみ収集をしている方へのインタビューを行い、市のリサイクルステーションで回収の様子を調査した。

(イ) 愛知県下水道出前講座

汚れた水の浄化には微生物の力が欠かせないことや、パックテストの方法について学んだ。また、少量の生活排水で生き物が住む水環境を強烈に悪化させることを知る事ができた。

(ウ) 愛知県地球温暖化防止教室

地球で起きている様々な環境問題と、そのなかの一つである地球温暖化の原因や、地球温暖化を防ぐために自分たちでできることについて学んだ。

(エ) 「福田川をきれいにする会」の方との福田川調査

福田川をきれいにする会の方の活動の様子を聞き、実際に福田川へ出かけて、パックテストや周囲の環境調査を行った。その後、地域の自治会の方から、昔の福田川の様子について話をうかがった。代表児童が愛知県水質パトロール隊に参加し、福田川の水質や周辺の様子について調べたことをまとめた。

(オ) ピアゴ甚目寺店での環境にやさしい取組見学

出前授業の内容を、実際の店舗で確認をしたり、取材をしたりした。

(カ) 夏休み節水活動(エコ日記)

夏休みを通して、各家庭で節水活動に取り組んだ。夏休み期間中に約10万リットルの節水を行うことができた。

オ 総合学習発表会

これまでの学習から各自がテーマを設定し、近いテーマをもった児童同士でグループとなって調べたことを発表した。4年生は体育館を使用し、各グループがブースに分かれてのポスターセッション形式で発表を行った。参観していただいた保護者、児童に付箋を持ってもらい、発表を聞いて環境にかかわることでこれから気を付けていきたいことや、考えたことを記入してもらった。その付箋を発表会のなかで、児童が分類をし、これから4年生児童として考えていきたいことや着目し



【二酸化炭素を出さない料理方法を考える】



【福田川をきれいにする会の方に話を聞く】



【福田川の水質調査】



← 【テーマごとに分かれて体育館でポスターセッション】

【見ていただいた方からの意見をKJ法で分類し発表】

→



ていきたいことの参考にすることができた。

カ 「甚目寺エコ・アクション！自分たちにできることをやってみよう！」

総合学習発表会での参観者からの意見や、その後の児童の話し合いをもとに、自分たちが地域の環境のためにできることを考え、11月から2月にかけて活動を行った。

身近な環境を守るために、学校のビオトープ清掃を行うグループ、節水を全校集会で呼びかけるグループ、地域にポスターを掲示してもらいエコ活動を呼びかけるグループに分かれ、多くの活動を行った。2月には福田川をきれいにする会主催の福田川クリーン活動に20名ほどの4年生児童が自主的に参加をし、地域の方と一緒に清掃活動を行った。



【地域の方との
福田川クリーン活動】

③ ESD社会科 「わたしたちの県のように」（6／7時間）

ア 導入の様子

自分たちが住んでいる愛知県のどこに人が多く集まっているのか考えさせるために、人口分布図と地形図を用いた。そして、ICTを活用して、黒板に写った地形図と人口分布図を重ね合わせたことで、人口が多いところと平地のところを重ね、平地に人が集まっていることに気付くことができた。その一方で山地には人が集まっているところがほとんどなく、「平地にはどうして人が集まるのか」という課題を児童たちはもつことができた。

イ 展開の様子

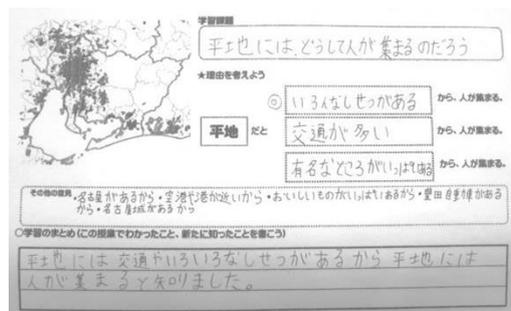
本時の課題である「平地にはどうして人が集まるのだろうか」について考えるために、まず初めに個人で課題追究を行った。その際には、あとで他の児童に説明ができるよう、地図帳や教科書をもとに根拠のある考えを書かせるようにした。その後、自分の考え以外の考えに気付かせるために、グループ、全体へと学習形態を発展させた。グループでの意見交流では、児童は、教科書や地図帳などを用いながら、自分の考えをグループの児童に伝えた。根拠があることで、「なるほど」と自分とは異なる意見に納得する姿が多く見られた。自分の考えを多面的に広げることができ、プリントには多くの意見を書き込むことができた。



【相手に根拠を示しながら
考えを伝える】

ウ 終末の様子とその後の学習へのつながり

全体の話し合いでは、平地に人があつまる理由について様々な意見が出された。それらの意見に対して、人口が多く集まる名古屋市に当てはめて、確かに言えそうなことなのか確認させた。児童から出された、「鉄道や新幹線などの交通が発展している」、「店や建物がたくさんある」など、児童が考えた多くの意見が名古屋市に当てはめることができ、人が集まることには様々な理由があることに気付くことができた。このような多面的に物事をとらえる学習



【意見・考えを多面的に
広げるためのワークシート】

は、環境学習をふりかえり、自分たちにできることを考える場面でも生かされた。全校に呼びかけたり、ポスターを作ったり、チラシを作成したりするなど、多くの方法を考え、その中からよりよい方法を考えようとする姿にもつながっているのではないかと考える。

(2) 実践の成果と課題

- 地域の環境に目を向けさせようと、地域にかかわる内容を中心に学習を進めた。福田川やごみの学習では、繰り返し地域の方や市の担当者の方と学習や交流する機会をもつことができた。2月には地域の方と福田川の清掃活動を一緒に行うこともでき、かかわりを深めることができた。
- 夏休みの出前授業や取材活動では、児童の興味関心にそって児童がテーマを選んだ。夏休みの学習の効果的な方法を今後も探していきたい。